

○ 土地改良事業等請負工事積算基準等の運用（平成 13 年 3 月 22 日 12 農振第 1686 号農村振興局整備部長通知）一部改正新旧対照表

（下線部は改正部分）

改 正 後	現 行
<p>II. 土地改良事業等請負工事積算基準の運用事項</p> <p>第 4 直接工事費の積算</p> <p>1. [略]</p> <p>2. 労務費</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">夜間工事の労務単価の算定について示されたい。</p> <p>労務賃金の加算額の算定にあたり、夜間工事の労務単価については、下記によるものとする。</p> <p>1) [略]</p> <p>2) 所定労働時間を超えた作業時間については、時間外割増賃金（基準額×割増対象賃金比×1.25）とする。</p> <p>3) 作業時間が深夜（22h～5h）にかかる場合は、基準額に深夜割増賃金（基準額×割増対象賃金比×0.25）を加算する。</p> <p>4) 所定労働時間を超えた作業時間が、深夜（22h～5h）にかかる場合は、深夜・時間外割増賃金（基準額×割増対象賃金比×1.50）とする。</p> <p>[以下略]</p> <p>5. 直接工事費の積算に留意すべき事項</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">仮設に要する費用の積上げ項目にはどのようなものがあるか示されたい。</p> <p>仮設に要する費用は、工事を直接施工するために必要な次の費用で、現場条件を的確に把握し、必要額を適正に積上げるものとする。</p> <p>(1)～(4) [略]</p> <p>(5) 防護施設（橋梁足場の防護柵、仮設橋梁の高欄、ガードレール及び発破防護柵等）に係る設置、撤去及び補修に要する費用並びに当該施設の使用期間中の損料。</p> <p>(6)～(8) [略]</p> <p>第 8 工事価格</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">設計変更に伴う工事価格の計算例を示されたい。</p> <p>[略]</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">工事価格を算出する場合の端数処理について示されたい。</p> <p>①単価表の各構成要素の数量×単価＝金額は、1円までとし、1円未満を四捨五入する。 ②共通仮設費の金額は1,000円単位とし、1,000円未満を四捨五入する。 ③現場管理費の金額は1,000円単位とし、1,000円未満を四捨五入する。 ④一般管理費等の金額は1,000円単位とし、1,000円未満を切り捨てる。 ⑤工事価格の金額は10,000円単位とし、10,000円未満を切り捨てる。 ⑥直接工事費の明細金額は1,000円単位とし、1,000円未満を四捨五入する。</p>	<p>II. 土地改良事業等請負工事積算基準の運用事項</p> <p>第 4 直接工事費の積算</p> <p>1. [略]</p> <p>2. 労務費</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">夜間工事の労務単価の算定について示されたい。</p> <p>労務賃金の加算額の算定にあたり、夜間工事の労務単価については、下記によるものとする。</p> <p>1) [略]</p> <p>2) 2交替、3交替を計画する場合、所定労働時間（8）＋1内は、基準額（深夜部分（22h～5h）にかかる場合は、深夜割増し（基準額×割増対象賃金比×0.25）を含む。）とする。 <u>ただし、2交替の場合にあつては、所定労働時間を超える場合は、時間外割増し（基準額×割増対象賃金比×1.25）、及び深夜時間外割増し（基準額×割増対象賃金比×1.50）を加算する。</u></p> <p>[以下略]</p> <p>5. 直接工事費の積算に留意すべき事項</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">仮設に要する費用の積上げ項目にはどのようなものがあるか示されたい。</p> <p>仮設に要する費用は、工事を直接施工するために必要な次の費用で、現場条件を的確に把握し、必要額を適正に積上げるものとする。</p> <p>(1)～(4) [略]</p> <p>(5) 防護施設（<u>転落、飛来等の防止柵</u>及び発破防護柵等）に係る設置、撤去及び補修に要する費用並びに当該施設の使用期間中の損料。</p> <p>(6)～(8) [略]</p> <p>第 8 工事価格</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">設計変更に伴う工事価格の計算例を示されたい。</p> <p>[略]</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">工事価格を算出する場合の端数処理について示されたい。</p> <p>①単価表の各構成要素の数量×単価＝金額は、1円までとし、1円未満を四捨五入する。 ②共通仮設費の金額は1,000円単位とし、1,000円未満を四捨五入する。 ③現場管理費の金額は1,000円単位とし、1,000円未満を四捨五入する。 ④一般管理費等の金額は1,000円単位とし、1,000円未満を切り捨てる。 ⑤工事価格の金額は10,000円単位とし、10,000円未満を切り捨てる。 [新設]</p>

Ⅲ. 土地改良事業等請負工事共通仮設費算定基準の運用事項

第3 運搬費、準備費、安全費、役務費、技術管理費及び営繕費の積算方法

1.・2. [略]

3.積み上げ計算による算定

運搬費の積み上げ計算方法を示されたい。

1. [略]

2. 仮設材（鋼矢板、H形鋼、覆工板、たて込み簡易土留、敷鉄板等）の運搬に要する費用
 仮設材の運搬は次式により行うものとする。
 なお、敷鉄板の運搬に要する費用については、標準歩掛等の諸雑費に含まれる敷鉄板は共通仮設費率の対象であり、敷鉄板設置撤去工等で別途積上げ計上した敷鉄板について積上げの対象とする。
- $$U = (E \times (1 + F1 + F2)) \times G + H$$
- ただし U：仮設材の運搬費
 E：基本運賃料金（円／t）
 次表によるものとする。
 なお、運搬距離は運搬基地より現場までの距離とする。
 また、仮設材の運搬費は次表に掲げてある基本運賃に、必要に応じ冬期割増及び深夜・早朝割増を行うものとし、車両留置料、長大品割増、休日割増、特別割引は適用しない。

[以下略]

3. 仮設材（鋼矢板、H形鋼、覆工板、たて込み簡易土留、敷鉄板等）の積込み、取降しに要する費用は次表による。

場 所	作 業	費 用 (円/ton)	
		片 道	往 復
基 地	積込み	1,500	3,000
現 場	取卸し		
	積込み	1,500	
基 地	取卸し		

4. 賃料適用のトラッククレーン（油圧伸縮ジブ型 80t 吊以上）及びクローラクレーン（油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 35t 吊以上）の分解組立時にかかる本体賃料及び運搬中の本体賃料は、積上げによるものとする。

重建設機械の運搬費

重建設機械の運搬費について、重建設機械分解組立運搬歩掛と貨物自動車による運搬方法の適用範囲とその内容を示されたい。

1. [略]

2. 上記適用建設機械未満（質量 20t 未満）の規格は共通仮設費の率に含まれており、分解費・組立費・運搬費及び、機械損料又は機械賃料を別途計上する必要はない。
 また、重建設機械の分解・組立及び輸送の中で、トラッククレーン（油圧伸縮ジブ型 20t～50t 吊）、ラフテレーンクレーン（油圧ジブ型 20～70 t 吊）についても同様とする。

3.・4. [略]

5. 車両割増の対象は、冷蔵車、コンクリートミキサー車、冷凍車による運搬を対象とする。

6. 特大品割増の対象は、1 個の長さが荷台の長さとその長さを 1 割加えたもの、重量 1 トンまたは容積 5 立方メートル以上のもの及び積載した状態において車両の高さが 3.8 メートル以上または長さが 12 メートル以上となるものである。また、使用車両積載標記 t 数の区分は、建設機械を分解した後の単体質量で区分する。

Ⅲ. 土地改良事業等請負工事共通仮設費算定基準の運用事項

第3 運搬費、準備費、安全費、役務費、技術管理費及び営繕費の積算方法

1.・2. [略]

3.積み上げ計算による算定

運搬費の積み上げ計算方法を示されたい。

1. [略]

2. 仮設材（鋼矢板、H形鋼、覆工板、たて込み簡易土留_____等）の搬入・搬出に要する費用
 仮設材の運搬は次式により行うものとする。
 [新設]
- $$U = (E \times (1 + F1 + F2)) \times G + H$$
- ただし U：仮設材の運搬費
 E：基本運賃料金（円／t）
 次表によるものとする。
 なお、運搬距離は運搬基地より現場までの距離とする。
 また、仮設材の運搬費は次表に掲げてある基本運賃に、必要に応じ冬期割増及び深夜・早朝割増を行うものとし、車両留置料、長大品割増、休日割増、特別割引は適用しない。

[以下略]

3. 仮設材等（敷鉄板を除く）の積込み、取卸しに要する費用は下表による。

場 所	作 業	費 用 (円/ton)	
		片 道	往 復
基 地	積込み	1,500	3,000
現 場	取卸し		
	積込み	1,500	
基 地	取卸し		

[新設]

重建設機械の運搬費

重建設機械の運搬費について、重建設機械分解組立運搬歩掛と貨物自動車による運搬方法の適用範囲とその内容を示されたい。

1. [略]

2. 上記適用建設機械未満（質量 20t 未満）の規格は共通仮設費の率に含まれており、分解費・組立費・運搬費及び、機械損料又は機械賃料を別途計上する必要はない。
 また、重建設機械の分解・組立及び輸送の中で、トラッククレーン（油圧伸縮ジブ型 20t～50t 吊）、ラフテレーンクレーン（油圧ジブ型 20～51 t 吊）についても同様とする。

3.・4. [略]

[新設]

[新設]

IV. 土地改良事業等請負工事標準歩掛の運用事項

3. コンクリート工

⑤ コンクリート養生

2. 養生工（特殊養生） 2-2 特殊養生工

練炭とジェットヒーター養生の使い分けを示されたい。

原則として下記とする。ただし、現地状況、構造物規模等によりこれにより難しい場合は別途考慮する。

- ①鉄筋構造物の場合はジェットヒーターによる養生を原則とする。
- ②上記以外は練炭による養生とする。

4. 基礎工

⑪ 軟弱地盤処理工（高圧噴射攪拌工）

5. 施工歩掛

損耗材料費について示されたい。

5-1 単管工法

5-1-4 損耗材料費

(1) 削孔損耗材料費

単管工法の削孔損耗材料費は、ロッド、ロッドカップリング、メタルクラウン、スイベル等の費用であり次表とする。

表 5. 1 単管工法の削孔損耗材料費 (円/m)

土質	砂質土	粘性土
削孔損耗材料費	338	249

(2) 注入損耗材料費

単管工法の注入損耗材料費は、モニター、ノズル、高圧ホース等の費用であり次表とする。

表 5. 2 単管工法の注入損耗材料費 (円/m³)

注入損耗材料費	5,990
---------	-------

5-2・5-3 [略]

⑫ [略]

IV. 土地改良事業等請負工事標準歩掛の運用事項

3. コンクリート工

⑤ コンクリート養生

2. 養生工（特殊養生） 2-2 特殊養生工

練炭とジェットヒーター養生の使い分けを示されたい。

原則として下記とする。

- ①鉄筋構造物の場合はジェットヒーターによる養生を原則とする。
- ②上記以外は練炭による養生とする。

4. 基礎工

⑪ 軟弱地盤処理工（高圧噴射攪拌工）

5. 施工歩掛

損耗材料費について示されたい。

5-1 単管工法

5-1-4 損耗材料費

(1) 削孔損耗材料費

単管工法の削孔損耗材料費は、ロッド、ロッドカップリング、メタルクラウン、スイベル等の費用であり次表とする。

表 5. 1 単管工法の削孔損耗材料費 (円/m)

土質	砂質土	粘性土
削孔損耗材料費	328	249

(2) 注入損耗材料費

単管工法の注入損耗材料費は、モニター、ノズル、高圧ホース等の費用であり次表とする。

表 5. 2 単管工法の注入損耗材料費 (円/m³)

注入損耗材料費	5,970
---------	-------

5-2・5-3 [略]

⑫ [略]

5. フリューム類据付工

施工歩掛

[略]

⑥ ボックスカルバート機械据付

[略]

⑦ 水路用鉄筋コンクリートL形ブロック機械据付

各据付機械の最大作業半径を示されたい。

各据付機械の製品質量毎の最大作業半径は、次表を参考にされたい。

製品質量 (kg)	機 械 名	規 格	最大作業半径 (m)
1,500 以下	バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.80m ³ (平積0.60m ³) 2.9t吊	8.5
4,000 以下	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t吊	13.0
3,400 以下			14.0
2,900 以下			16.0
2,550 以下			17.0
2,150 以下			18.0
1,900 以下			19.0
1,600 以下			20.0

(注) 製品質量は、各機械規格の最大作業半径における定格荷重を示しているものではない。

11. トンネル工

① 岩トンネル (レッグ工法)

1. 適用範囲

[略]

トンネル工事の月稼働日数を示されたい。

トンネル工事は、週当り歩掛であることから、週当り作業量は、土・日曜日を含む1週当り作業量であり、週当り歩掛から工程計算した場合は、別途、月稼働日数を考慮する必要はない。

5. フリューム類据付工

施工歩掛

[略]

⑥ ボックスカルバート機械据付

[略]

[新設]

11. トンネル工

① 岩トンネル (レッグ工法)

1. 適用範囲

[略]

[新設]

5. 掘削及び支保工 5-1 掘削工及び支保工労務歩掛

[略]

[削る。]

7. 覆エコンクリート

[略]

鋼製スライディングフォームの損料はどのように算定するのか。

鋼製スライディングフォーム（標準馬蹄形及び3Rホロ形）損料				
内空半径 r m	質量(参考) t/基	基礎価格 千円/基	損料	摘要
0.9	14.5	12,500	施工 1m 当り損料 $= (0.00024 + 0.48/L) \times P$ P: スライディングフォームの基礎価格 (円) L: 巻立施工延長 (m)	フォーム長 12m / 基 に適用
1.0	15.7	12,900		
1.1	17.0	13,200		
1.2	18.2	13,600		
1.3	19.4	14,000		

(注) [略]

②～③ [略]

5. 掘削及び支保工 5-1 掘削工及び支保工労務歩掛

[略]

5-4 諸雑費

諸雑費に含まれる火薬及び電気雷管の標準使用量を示されたい。
 また、地山条件あるいは周辺の環境に与える影響を考慮し、標準の火薬使用量を変更したい場合の積算は如何にすべきか。

火薬及び電気雷管の標準使用量は、下表のとおりである。
 火薬量を変更する場合は、穿孔数、穿孔時間、装薬時間等の実態も調査の上、別途積算するものとする。

設計掘削断面積 トンネルタイプ	掘削 1 m ³ 当りの火薬量 (kg/m ³)				
	A	B1	B2	C	D
3.5～5.5 m ² 未満	2.0	2.6	2.4	1.5	0.8
5.5～8.0 m ² 未満	1.8	2.4	2.2	1.4	0.6
8.0～10.0 m ² 以下	—	2.3	2.0	1.2	0.5

7. 覆エコンクリート

[略]

鋼製スライディングフォームの損料はどのように算定するのか。

鋼製スライディングフォーム（標準馬蹄形及び3Rホロ形）損料				
内空半径 r m	質量(参考) t/基	基礎価格 千円/基	損料	摘要
0.9	14.5	12,700	施工 1m 当り損料 $= (0.00024 + 0.48/L) \times P$ P: スライディングフォームの基礎価格 (円) L: 巻立施工延長 (m)	フォーム長 12m / 基 に適用
1.0	15.7	13,100		
1.1	17.0	13,400		
1.2	18.2	13,800		
1.3	19.4	14,200		

(注) [略]

②～③ [略]

15. 仮設工

⑦・⑭ [略]

⑰ 油圧圧入引抜工

5-2 圧入作業（継施工）

油圧式杭圧入引抜機による圧入作業において、継ぎ施工となる場合の継ぎ施工費について示されたい。

継ぎ施工費とは、溶接棒費用、補強板材料費及び開先加工費である。
なお、継ぎ施工費の計上については下記のとおりとする。

継ぎ施工費	
鋼矢板型式	継ぎ施工費（円／箇所）
Ⅱ型	6,140円
Ⅲ型	6,470円
Ⅳ型	6,860円
ⅤL型	8,060円
ⅤⅦ型	8,190円
Ⅱw型	7,490円
Ⅲw型	7,730円
Ⅳw型	8,290円

⑱ [略]

19. その他

①～④ [略]

⑤ 推進工

本歩掛には、推進工に関する歩掛が制定されていないが、積算に当っては、どのようにすべきか。
また、積算に用いる歩掛の参考となる図書を示されたい。

（社）日本下水道協会発行の「下水道用設計標準歩掛表 第1巻 管路編」、「下水道用設計積算要領管路施設（推進工法）編」、全国簡易水道協議会発行の「水道事業実務必携」及び（社）日本下水道管渠推進技術協会発行の「推進工用機械器具等損料参考資料（損料参考資料）」を参考に積算されたい。
なお、推進工用機械器具等の基礎価格は、市場価格によるものとする。

⑥～⑧ [略]

15. 仮設工

⑦・⑭ [略]

⑰ 油圧圧入引抜工

5-2 圧入作業（継施工）

油圧式杭圧入引抜機による圧入作業において、継ぎ施工となる場合の継ぎ施工費について示されたい。

継ぎ施工費とは、溶接棒費用、補強板材料費及び開先加工費である。
なお、継ぎ施工費の計上については下記のとおりとする。

継ぎ施工費	
鋼矢板型式	継ぎ施工費（円／箇所）
Ⅱ型	6,120円
Ⅲ型	6,440円
Ⅳ型	6,810円
ⅤL型	7,970円
ⅤⅦ型	8,230円
Ⅱw型	7,470円
Ⅲw型	7,700円
Ⅳw型	8,220円

⑱ [略]

19. その他

①～④ [略]

⑤ 推進工

本歩掛には、推進工に関する歩掛が制定されていないが、積算に当っては、どのようにすべきか。
また、積算に用いる歩掛の参考となる図書を示されたい。

推進工の内、刃口推進（元押）工法については、（財）下水道新技術推進機構発行の「下水道工事積算基準」及び、全国簡易水道協議会発行の「水道事業実務必携」に基づき積算されたい。

また、刃口推進（元押）工法以外の工法については、（財）下水道新技術推進機構発行の「下水道工事積算基準」、（社）日本下水道協会発行の「下水道用設計積算要領管路施設（推進工法）編」、全国簡易水道協議会発行の「水道事業実務必携」及び（社）日本下水道管渠推進技術協会発行の「推進工用機械器具等損料参考資料（損料参考資料）」を参考に積算されたい。

なお、推進工用機械器具等の基礎価格は、市場価格によるものとする。

⑥～⑧ [略]

⑨ 積算工程算定上の供用日数

供用日数の算定はどのようにするか示されたい。

供用日数=現場供用日数(在场日数)+搬入搬出日数(組立と解体日数含む)

① 現場供用日数は原則として設計運転日数及び月標準稼働日数から算定する。

[中略]

○作業不能日数(N)

日降水量別日数(N_i)

日降水量別日数は過去10カ年の平均値

日降水量別補正係数(K_i)

日降水量別補正係数は下表による。

年間作業不能日数(N_R) = Σ(N_i × K_i)

年間作業不能日数(N_R) × (V_R/365+0.3) を休日(V_R)に振り替えることとする。

休日と重複する確率 = V_R/365 実振替え日となる比率0.3

$N = N_R \times \frac{1 - (V_R/365 + 0.3)}{1 - 0.3} \div 12$

[以下略]

⑩ [略]

⑪ バイブロハンマ工(継施工)

継ぎ施工費

継ぎ施工費について示されたい。

継ぎ施工費の計上については下記のとおりとする。

継ぎ施工費

	鋼矢板型式	継ぎ施工費(円/箇所)
鋼	Ⅱ型	6,140
	Ⅲ型	6,470
	Ⅳ型	6,860
	ⅤL型	8,060
矢	Ⅱw型	7,490
	Ⅲw型	7,730
	Ⅳw型	8,290
板	10H型(ハット)	11,900
	25H型(ハット)	12,700
H形鋼	H250	15,500
	H300	20,500
	H350	25,300
	H400	36,700

(注) [略]

⑨ 積算工程算定上の供用日数

供用日数の算定はどのようにするか示されたい。

供用日数=現場供用日数(在场日数)+搬入搬出日数(組立と解体日数含む)

① 現場供用日数は原則として設計運転日数及び月標準稼働日数から算定する。

[中略]

○作業不能日数(N)

日降水量別日数(N_i)

日降水量別日数は過去10カ年の平均値

日降水量別補正係数(K_i)

日降水量別補正係数は下表による。

年間作業不能日数(N_R) = Σ(N_i × K_i)

年間作業不能日数(N_R) × 0.6 を休日(V_R)に振り替えることとする。

0.6(休日と重複する確率=123.4/365=0.3 実振替え日となる比率0.3)

$N = N_R \times \frac{1 - 0.6}{1 - 0.3} \div 12$

[以下略]

⑩ [略]

⑪ バイブロハンマ工(継施工)

継ぎ施工費

継ぎ施工費について示されたい。

継ぎ施工費の計上については下記のとおりとする。

継ぎ施工費

	鋼矢板型式	継ぎ施工費(円/箇所)
鋼	Ⅱ型	6,120
	Ⅲ型	6,440
	Ⅳ型	6,810
	ⅤL型	7,970
矢	Ⅱw型	7,470
	Ⅲw型	7,700
	Ⅳw型	8,220
板	10H型(ハット)	11,900
	25H型(ハット)	12,600
H形鋼	H250	15,400
	H300	20,300
	H350	25,100
	H400	36,500

(注) [略]

⑫ 油圧圧入引抜工（ハット形鋼矢板）

継ぎ施工費

継ぎ施工費について示されたい。

継ぎ施工費の計上については下記のとおりとする。

継ぎ施工費

鋼矢板型式	継ぎ施工費（円／箇所）
10H型（ハット）	11,900
25H型（ハット）	12,700

（注） [略]

⑬ [略]

⑫ 油圧圧入引抜工（ハット形鋼矢板）

継ぎ施工費

継ぎ施工費について示されたい。

継ぎ施工費の計上については下記のとおりとする。

継ぎ施工費

鋼矢板型式	継ぎ施工費（円／箇所）
10H型（ハット）	11,900
25H型（ハット）	12,600

（注） [略]

⑬ [略]

V. 土地改良事業等請負工事機械経費算定基準の運用事項

[中略]

(機械損料の積算)

損料算定表に記載のない機械はどのように算定したらよいか。

次表を参考に算定されたい。

損料算定表（一般機械）

分類 コード	規格			(1) 基礎 価格 (千円)	(2) 標準 使用 年数 (年)	年間標準			(6) 維持 修理 費率 (%)	(7) 年間 管理 費率 (%)	残 存 率 (%)	運転1時間当たり		供用1日当たり		参 考				摘 要
	諸 元	機関 出力 kW	機械 質量 (t)			(3) 運 転 時 間 (時間)	(4) 運 転 日 数 (日)	(5) 供 用 日 数 (日)				(8) 損 料 率 ($\times 10^{-6}$)	(9) 損 料 (円)	(10) 損 料 率 ($\times 10^{-6}$)	(11) 損 料 (円)	(12) 損 料 率 ($\times 10^{-6}$)	(13) 損 料 (円)	(14) 損 料 率 ($\times 10^{-6}$)	(15) 損 料 (円)	
【ブルドーザ及びスクレーパ】 ブルドーザ [超湿地] 13 t級		96	14.5	12,500	12.5	400	80	140	30	9.0	9	151	1,890	903	11,300	467	5,840	1,334	16,700	
【クレーンその他荷役機械】 クローラクレーン [機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型] 吊上能力16.0t吊 [削る。] [削る。]		71	22.0	15,100	14.0	520	100	150	40	9.0	14	114	1,720	805	12,200	346	5,220	1,200	18,100	
【基礎工専用機械】 パイロハンマ（単体） [電動・普通型] 起振力107.9～127.5kN(11～13t)		15	1.4	4,450	10.0	470	80	120	55	9.0	10	213	948	1,125	5,010	500	2,230	1,958	8,710	操作盤、コンクリート矢板用 チャック装置一式、二次側 ケーブル及びショックアブソーバ を含む。
【コンクリート機械】 コンクリート圧送管 径125mm 1m当り		-	-	5	0.8	430	70	140	15	9.0	9	1,644	8	4,392	22	3,076	15	9,433	47	径125mm直管、曲管、中 間ホース、先端ホース(いずれ もヒートリッジジョイント含む) 含む。
【ウインチ類】 ウインチ [複胴開放式・ディーゼル] 巻上能力 1.80t 巻上能力 2.80t 巻上能力 4.20t		48.5 48.5 108	1.6 2.2 3.1	2,180 2,880 3,570	14.0 14.0 14.0	- - -	100 100 100	160 160 160	135 135 135	7.0 7.0 7.0	7 7 7	(日) 1,296 (日) 1,296 (日) 1,296	(日) 2,830 (日) 3,730 (日) 4,630	645 645 645	1,410 1,860 2,300	(日) 2,329 (日) 2,329 (日) 2,329	(日) 5,080 (日) 6,710 (日) 8,310	1,455 1,455 1,455	3,170 4,190 5,190	
【試験測定機器】 コア採取器（コアボーリングマシン） 穿孔径5～15cm 穿孔深50cm 穿孔径10～25cm 穿孔深50cm		2.9 4.8	0.17 0.18	345 560	5.0 5.0	- -	70 70	90 90	75 75	9.0 9.0	7 7	(日) 3,471 (日) 3,471	(日) 1,200 (日) 1,940	2,033 2,033	701 1,140	(日) 6,086 (日) 6,086	(日) 2,100 (日) 3,410	4,733 4,733	1,630 2,650	エンジンを含み、ピット、コア チェーブ、アダプタは含まな い。
【その他機器】 簡易やぐら 鋼製φ60.5×4.0m 2.0t吊 モータイン付		2.2	0.4	1,590	16.0	-	90	160	90	7.0	7	(日) 948	(日) 1,510	619	984	(日) 2,049	(日) 3,260	1,152	1,830	
【主作業船】 ポンプ浚渫船 [ディーゼル式] D 800PS型		588	-	339,000	30.0	390	30	50	130	6.0	10	940	31,900	19,333	655,000	3,419	116,000	26,667	904,000	
【作業船用付属品】 汚濁防止枠 [鋼製] 1～2m ³ 用		-	-	1,000	5.0	-	-	120	145	4.0	10	-	-	42,500	4,250	-	-	42,500	4,250	

V. 土地改良事業等請負工事機械経費算定基準の運用事項

[中略]

(機械損料の積算)

損料算定表に記載のない機械はどのように算定したらよいか。

次表を参考に算定されたい。

損料算定表 (一般機械)

分類 コード	規格		(1) 基礎 価格 (千円)	(2) 標準 使用 年数 (年)	年間標準			(6) 維持 修理 費率 (%)	(7) 年間 管理 費率 (%)	残 存 率 (%)	運転1時間当たり		供用1日当たり		参 考				摘 要	
	諸 元	機関 出力 kW			機械 質量 (t)	(3) 運 転 時 間 (時間)	(4) 運 転 日 数 (日)				(5) 供 用 日 数 (日)	(8) 損 料 率 (%)	(9) 損 料 (円)	(10) 損 料 率 (%)	(11) 損 料 (円)	(12) 損 料 率 (%)	(13) 損 料 (円)	(14) 損 料 率 (%)		(15) 損 料 (円)
	【ブルドーザ及びスクレーパ】 ブルドーザ 【超湿地】 13t級	96	14.5	12,500	12.5	430	80	150	35	9.0	9	150	1,880	843	10,500	444	5,550	1,272	15,900	
	【クレーンその他荷役機械】 クローラクレーン 【機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型】 吊上能力16.0t吊	71	22.4	15,100	13.0	560	110	160	45	9.0	13	122	1,840	772	11,700	342	5,160	1,197	18,100	
	吊上能力22.5t吊	71	23.0	16,100	13.0	560	110	160	45	9.0	13	122	1,960	772	12,400	342	5,510	1,197	19,300	
	吊上能力25~27t吊	85	27.8	18,600	13.0	560	110	160	45	9.0	13	122	2,270	772	14,400	342	6,360	1,197	22,300	
	【基礎工事用機械】 パイプロハンマ (単体) 【電動・普通型】 起振力107.9~127.5kN(11~13t)	15	1.4	3,480	9.5	500	80	120	60	9.0	9	222	773	1,149	4,000	498	1,730	2,075	7,220	操作盤、コンクリート矢板用 チャック装置一式、二次側 ケーブル及びジョイントケーブル を含む。
	【コンクリート機械】 コンクリート圧送管 径125mm 1m当り	-	-	5	0.8	460	70	150	15	9.0	9	1,644	8	4,392	22	3,076	15	9,433	47	径125mm直管、曲管、中 間ホース、先端ホース(いすずれ もビッドリッジジョイント含む) 含む。
	【ウインチ類】 ウインチ 【複胴開放式・ディーゼル】 巻上能力 1.80t	48.5	1.6	2,180	14.0	-	100	160	135	7.0	7 (日)	1,296 (日)	2,830	645	1,410 (日)	2,329 (日)	5,080	1,455	3,170	
	巻上能力 2.80t	48.5	2.2	2,880	14.0	-	100	160	135	7.0	7 (日)	1,296 (日)	3,730	645	1,860 (日)	2,329 (日)	6,710	1,455	4,190	
	巻上能力 4.20t	108	3.1	3,570	14.0	-	100	160	135	7.0	7 (日)	1,296 (日)	4,630	645	2,300 (日)	2,329 (日)	8,310	1,455	5,190	
	【試験測定機器】 コア採取器 (コアボーリングマシン) 穿孔径5~15cm 穿孔深50cm	2.9	0.17	345	5.0	-	70	90	75	9.0	7 (日)	3,471 (日)	1,200	2,033	701 (日)	6,086 (日)	2,100	4,733	1,630	エンジンを含み、ビット、コア チューブ、アダプタは含まな い。
	穿孔径10~25cm 穿孔深50cm	4.8	0.18	560	5.0	-	70	90	75	9.0	7 (日)	3,471 (日)	1,940	2,033	1,140 (日)	6,086 (日)	3,410	4,733	2,650	
	【その他機器】 簡易やぐら 鋼製φ60.5×4.0m 2.0t吊 モータイン付	2.2	0.4	1,600	16.0	-	90	160	90	7.0	7 (日)	948 (日)	1,520	619	990 (日)	2,049 (日)	3,280	1,152	1,840	
	【主作業船】 ポンプ浚渫船 【ディーゼル式】 D 800PS型	588	-	339,000	30.0	390	30	50	130	6.0	10	940	31,900	19,333	655,000	3,419	116,000	26,667	904,000	
	【作業船用付属品】 汚濁防止枠 【鋼製】 1~2m ³ 用	-	-	1,000	5.0	-	-	120	145	4.0	10	-	-	42,500	4,250	-	-	42,500	4,250	

VI. 土地改良事業等請負工事仮設材経費算定基準の運用事項
(仮設材損料の積算)

損耗率

コルゲートパイプ等を仮設資材として使用する場合の損耗率を示されたい。

仮設名	仮設材名	設置期間別1現場当たり損耗率(%)						摘要
		1ヶ月未満	3ヶ月未満	6ヶ月未満	1年未満	2年未満	3年未満	
土留 仮締切 仮橋場 足保 支護柵等	木材	15	25	40	50	75	100	A条件
	〃	50	65	80	100	100	100	B条件
	鋼材	10	10	20	30	50	70	
給排水 仮廻し水路等	合成樹脂管・ホース	30	45	55	65	75	85	
	鋼管・ガス管	10	10	20	30	—	—	
	鋼製コルゲートパイプ	30	45	55	65	75	85	
	コンクリート管	50						
保安施設等	シート	30						
	ロープ	20						

備考 1.～4. [略]

5. 合成樹脂管・ホースは、硬質ポリ塩化ビニル管・塩化ビニルホース・高密度ポリエチレン管を対象とする。

6. [略]

[以下略]

VI. 土地改良事業等請負工事仮設材経費算定基準の運用事項
(仮設材損料の積算)

損耗率

コルゲートパイプ等を仮設資材として使用する場合の損耗率を示されたい。

仮設名	仮設材名	設置期間別1現場当たり損耗率(%)						摘要
		1ヶ月未満	3ヶ月未満	6ヶ月未満	1年未満	2年未満	3年未満	
土留 仮締切 仮橋場 足保 支護柵等	木材	15	25	40	50	75	100	A条件
	〃	50	65	80	100	100	100	B条件
	鋼材	10	10	20	30	50	70	
給排水 仮廻し水路等	合成樹脂管・ホース	30	45	55	65	75	85	
	鋼管・ガス管	10	10	20	30	—	—	
	鋼製コルゲートパイプ	30	45	55	65	75	85	
	コンクリート管	50						
保安施設等	シート	30						
	ロープ	20						

備考 1.～4. [略]

5. 合成樹脂管・ホースは、塩化ビニル管・塩化ビニルホース・高密度ポリエチレン管を対象とする。

6. [略]

[以下略]